

※製作のための材料と基礎知識※

身近な材料

砂 場 三 郎

大松監督の“おれについてこい”の中で、昔はこうだった」ということは、一言も口にしなかったとあります。筆者など凡人の代表みたいなものが、昔はこんなだった、自分はこうだったと自己の過去から今の子どもを推しはかるようないこともあります。ビール瓶のふたの勲章をつけたり、罐づめのかんからのカッポリ（下駄）であるいたり、瓦のかけら一つで夢中になり、つまらないものの収集に浮身？をやつしたり……、このような記憶ばかりが先に立ち、学校で教わった手工のことなど、何一つおぼえていません。

不勉強な子どもだったのでしょうが、そのころにおける、いわゆる身近な材料と活動（遊び）の関係は、現在でも同じようなことを繰り返しているのではないでしようか。

子どもの身近に散在している材料……おとなの大眼から見れば

取るに足りないような廃材も、遊びの世界ではなくてはならない貴重な存在ですが、これも幼稚園や学校での教材という名前には肩替りすると、これまでのたくましさや、天衣無縫なたのしさが影をひそめてしまうようです。ここに子どもの素材に対する興味や欲求、教育上の取り扱いなどいろいろ問題があると思いますが、このことはいずれ後の課題にまわすとして、まずはじめに、子どもが誰からも束縛されないで、自分たちの生活のなかに取りいれているものといつたらどんなものがあるだろうか、この点から考えてみたいと思います。

しかしそれは、都市と農村、その身辺や環境・個人差もあり、商業デザインの進歩がはげしくなると、昔は古新聞の紙袋でまことにいえないことですが、現在のように消費水準が高まり、うなことを繰り返しているのではないでしようか。

子どもの身近に散在している材料……おとなの大眼から見れば

らにきれいな包装紙でくるみきれいなりボンがかけられるのが

普通になり、これとあいまって、プラスチック工業の発達がこ

れに一層の拍車をかけています。

このような消費材の氾濫（はんらん）は、子どもの身辺を取りまく身近な材料としての観念をかえてしまいました。

素朴な自然の中で、つばきの花をつないで首に飾ったり、すみれ草で相撲を取った牧歌的なロマンチズムがなくなることは淋しいことで、このような素朴な夢をこわさない心掛けももちろん大切ですが、現代に息吹きする子どもをたくましく教育するためには、進んで現代の中に溶けこませることも一つの考え方といえるでしょう。

まえおきが随分ながくなりましたが、それではこれらのもののかから、さらに教材として取りあげられるものといつたらどのようなものがあるか、次に挙げる材料は、教材として販売されていない、すなわち金を出さなくて得られるもの、その地域で簡単なもの、ある程度普遍性のあるものを主として選んでみましたが、その他いろいろ考えられることでしょう。

包装紙

各種商品の包装紙（茶リクラフト紙、白色リ土質紙・紙白

ロール）チョコレート等の包装紙

キャンデー・あめの包装紙（中リオブラート、外リ防湿セ

ロファン）紙袋（クラフト紙（ハトロン紙））
空箱

各種木箱（リンゴ箱・ミカン箱）

ダンボール箱（外側リクラフト紙（ハトロン紙）の原紙
内側リ黄ボール中芯またはチップ中芯）

ボール箱（ボール紙）

化粧品・石けんの空箱（マニラボールまたは白ボール、表面
をコートングして印刷効果をよくしてある）

キャラメル・煙草の空箱（タ）
マッチ箱

つめもの

ダンボール

段付き紙（片面ダンボールハ白段V

色セロファンで片段にしたもの）

木毛（ハッキン）

発泡スチロール（プラスチック）

わら、むぎわら

容器

罐詰の空罐（ブリキ）ふたのできる空罐（ブリキ）

あきびん

イチゴの容器（プラスチック）

幼児のための教材研究 *****

デコレーションケーキの容器（紙・発泡スチロール）

紙皿・スチロール皿

紙コップ（排水性がある）

アイスクリーム容器（排水性がある）

ビニール袋各種

古封筒・ダイレクトメール、電気器具
自然物傍から

ふた

のりのふた、化粧瓶のふた、牛乳びんのふた

空罐のふた、

ビール瓶のふた、コルク、空箱のふた

ひも類

リボン、わらなわ・ラフランなわ、紙ひも・あさひも、ビニールひも、紙テープ、セロハンテープ、ビニールテープ

家庭の廢材として

新聞紙・古週間誌（表誌Ⅱ両面アート紙、中味Ⅱ更紙中質

紙、写真グラビア用紙）

古カレンダー（両面・片面アート紙・上質紙）

洋裁のたちくず、糸・毛糸くず、食器・コップ類・びん類

たわし・各種ブラシ、

割ばし、ストロー、ざる・竹かご、

クリップ・洗濯ばさみ、糸まき、もちあみ、

古すだれ（ビニールハイフ）マッチ棒、

土・砂・小石、木の実（ドングリ・松かさなど）

草の実（じゅず玉・豆類・種子）

ブロック・レンガ・古瓦の破片、

野菜（だいこん・にんじん・じゃがいもなど）
木の葉、花びら、わら・むぎわら・きびがら、
すすき（は・ほ・くき）、つる・かずら、
竹・竹のかわ・葉、鳥の羽根

その他

木片、板片、こわれた玩具、釘、はり金、竹ひご、よし
ず、あみ、糸まきなどまだ考えられると思いますが、とく
に織物、陶器、家内工業や工場地帯、農山村など、その地
域の特色をいかしたもののもすいぶんあると思います。

さて次は、これらをどのように教育の場にもちこむかが問題
になつてきますが……。

戦後、ものない時、ガラクタ工作、ヨセアツメ工作という
時代がありました。当時台頭したオブジェ工作と、戦中もの
ない時の代用品、廃物利用の気分が混同し、造形活動の方向と
しても混沌とした時代でしたが、その時代の中で整理されて現
代の一つの方向をみつけ出したとも言えると思います。

けれども、現在のように、いろいろな教材教具ができると、大へん便利で子どもたちも大へん幸福ですが、なかには、

創造の芽をふみにじるようなインスタントなものもないとはかぎりません。そのようなものの上にひかれた路線をおどおど走

るようなことがあってはいけないと思います。

野でも山でも平気で進むたくましさ、一辺紙片もすばらしい創造物にかえてしまう貪欲（どんよく）さがほしいものです。

ローエンフェルドが、「おとなさえ彼らを束縛しなければ、のびのびと創造的に自分自身を表現します」と大へんショッキングなことをいつていますが、子どもの本当の要求が身近な素材にあるとはいきませんが、思いきって、前述したような素材を子どもにぶつけることにより、新しい方向が開けてくると。

次にこのような材料を取り扱う場合の注意やホイントを二、三のべてみたいと思います。

・集めるのに可能な範囲をたしかめる。

ある地域では簡単に得られるものでも、家庭にはいるとなか

り、事前処置を十分にとること、金を出さずに簡単に得られる

なか得にくいものもありますから、まえもって家庭に連絡した入してくれとか、俗悪な市販品で代用するような結果にならな

り、「お誕生日にどんなケーキをいたいたいた」など子どもの遊びを再現させながらその中で造形活動をさせる。ある子どもは、どろんこに木の葉ツバ、赤い木の実で飾ったケーキを作るだろう

いよう、家庭との連絡をとつて、その点十分認識してもらう必要があります。

……次に指導の方法ですが……

・オブジェ工作といわれるような方法

川原の石ころの中から、人や動物の顔に似ている石をさがし、これに目、はなをつけたり、髪をつけるような方法で、あるものの形や色、地肌から何らかを連想させ、そのイメージをのばすような表現をさせることをいいます。「あした人の顔に似たような石を持っていらっしゃい」というような味気ない方法でなく、前もって数多くの廃材を集めさせ、子どもに十分に関心と期待を持たせ、イメージの発想を大事にそだてるような方法をとらせる。

とくに都会の子どもは、外に出る機会があれば、ニタモノ集めをさせたり、すすきの穂の手ざわりを実際に肌で感じさせたりして、かわいい小鳥の羽根を連想させるなど体ごとで感じとするような経験が貴重でしょう。

・身近な題材を与えて材料を考えさせる

「お誕生日にどんなケーキをいたいたいた」など子どもの遊びを再現させながらその中で造形活動をさせる。ある子どもは、どろんこに木の葉ツバ、赤い木の実で飾ったケーキを作るだろう

幼児のための教材研究 *****

し、ある子どもは、小石をきれいな紙にくるんだアメを考えるだろうし、空箱を飾ったケーキを作る子どももいるでしょう。幅広い素材から選ばせる例で子どもの遊びをスムースに教室の場に転化させるような方法。

・日頃目にふれないめずらしい素材を与えて

漁村では何でもないことでしょうが、都会の幼稚園へ魚とりのあみをもちこんで壁面につるした中で、「さあお魚を作りましょう」といえば、しばらくのうちにあみにかかった魚がいっぱいになり活気づいたものになるでしょう。

日頃経験できない材料を与えることは大切なことで、目で、匂いで、肌で、体で感じとれる新鮮さを供給するような心掛けがほしいものです。米屋から米俵をもらい受け、それをほぐして与えたときなどの、そのわらの匂いは現代の子どもにもやはり感じとれるものがあるでしょうし、すすきの穂のひんやりしたやわらかさを肌で感じることもできるでしょう。しかしながら、このような経験をする機会がすくなく、自然の味も失ないがちだと思いますが、地域社会の中だけでなく、広く自然とふれ合う機会を作り、幅広い材料経験をさせたいのです。

・素材を与えてその機能をキャッチさせる

たとえば、釘と金槌をえれば、ほっておいても釘を打ちはじめるだろうし、穴のあいた糸まきを与えれば、穴にひもを通し

てつないだり、車にして遊ぶでしょう。このようにそのものの持つ機能や構造上の特徴や強さを鋭敏に感じとらせるような素材を与えることも創意工夫を高めるための手段でしょう。

・条件を与えて素材をみつけさせ

以前にもちよつとのべましたが、「舟を作つて水に浮かべましょう」に条件を与えた場合、まず水に浮かぶためには、木片でしうが、イチゴのプラスチック容器にきずく子やイワシの罐づめの空罐で工夫する子、筏ぶねを考える子どももいるでしょう。これら材料を選ぶわけは、木の比重差、空罐の浮力、筏舟の凝縮力を知らずに感じとっているわけで、その他構造上の強さを条件にすることなどもあるでしょうが、いろいろな材料のなかから、その性質や特徴を鋭敏に感じとっていくことでしよう。私どもが幼い頃、無意識のうちに感じとってきた経験がどれだけ貴重であつたか、現代の子どもが現代の生活環境の中でいろいろな材料経験をしていくことが、また彼らの将来にいきに大切なことか、こんなことを感じます。

